

## 安全・安心な社会の実現に向けて

### 第76回社会を明るくする運動メッセージ伝達式

第76回社会を明るくする運動メッセージ伝達式が7月7日、町役場で行われ、上益城地区保護司会が町長へ、内閣総理大臣と県知事のメッセージを伝達しました。

安全で安心な社会の実現には、犯罪や非行を未然に防ぐことに加え、犯罪や非行をした人の立ち直りについて理解を深め、地域で支援していくことが不可欠です。

過ちから立ち直ろうとする人に寄り添う保護司をはじめとした更生ボランティア。この運動を通じ、彼らの活動を知ることは、目指す社会の実現の第一歩となります。



町役場を訪問した上益城地区保護司会の皆さん



卓球のコートでは、激しいラリーが繰り広げられた

## 燃える闘魂！ 繰り広げられる熱戦

### 第76回上益城郡民スポーツ大会

第76回上益城郡民スポーツ大会が6月から7月にかけて、御船町を主会場に、郡内各地で開催されました。

灼熱の太陽が照りつける中、選手たちは熱き闘志を燃やし、競技に全力で挑みました。5町の23種目の代表が競った結果、益城町は10種目で優勝し、昨年に続き、見事総合優勝を果たしました。

【優勝種目】軟式野球／ソフトボール男子／ソフトボール女子／卓球／バドミントン／バスケットボール男子／空手道／弓道／相撲／ゲートボール女子

## 百歳おめでとうございます

### 宮園の和後文子さん

和後文子さん(大正15年7月12日生まれ)が100歳の誕生日を迎え、百歳表彰を受けました。

毎日の新聞講読を欠かさない和後さん。視力は今も健在で、眼鏡なしでも新聞の小さい文字が読めるほど。人との会話も大好きで、どこへ行っても朗らかな笑いを絶やさず、そこにいるだけで周囲を和ませます。

この日を待ち望んでいた和後さんは「ずっとと楽しみにしていました。羽があったら飛んでいきたいくらいうれしい」と満面の笑みを浮かべました。



文子さん(中央)と息子夫婦の㊟和後美江子さん、㊟虎男さん



全英オープンゴルフ出場おめでとう

Pickup Plus +  
今月のプラス

7月7日、町復興大使を務めるプロゴルファーの永野竜太郎さんが、7月16日開幕の男子ゴルフメジャー選手権「全英オープンゴルフ」の出場に向け、町役場を訪れました。5年ぶり二度目となる挑戦を前に永野さんは、「復興大使として、町民の皆さんを元気づけられるような成績を残したい」と意気込みを語りました。

ながの りゅうたろう

## 震災を乗り越え、未来へつなぐ命

### 益城町人口回復記念 ～未来へつなぐ、ワンステップ～

町の人口が熊本地震前の水準に回復したことを記念し、6月29日、人口回復後に初めて益城町で生まれた櫛山央翔くんに、町から認定証と記念品を贈呈しました。

震災前に34,499人だった人口は一時1,600人ほど減少しましたが、今年の4月末に34,506人まで回復しました。父の和秀さんは、「4車線化で渋滞も少なく、子育て支援も充実していて、住みやすいと感じています。親として子どもたちが明るく元気に過ごせる町になっていくことを願っています」と笑顔を浮かべました。



櫛山家族。(左から)蒼和くん、怜加さん、央翔くん、和秀さん



西村町長から感謝状を受け取った原代表取締役

## 町のさらなる発展を願って

### 企業版ふるさと納税感謝状贈呈式

6月30日、町は企業版ふるさと納税にて寄付を頂いた蛇の目ブロック株式会社(熊本市)に感謝状を贈呈しました。

今回の寄付は、熊本地震からの復興推進に加え、子ども・子育て推進、安全・安心推進、住環境・公共交通整備の4つのプロジェクトに賛同したものです。

感謝状を受け取った原裕一代表取締役は、「地震の調査で、町を訪れた時の光景は今も覚えています。町のさらなる発展のための一助になれば」と語りました。

## 未来のサッカー選手ヘクロスボール！

### プロサッカー選手によるサッカー教室

町サッカー協会主催「丹羽大輝選手サッカー教室」が7月4日、ギズナパークで開催されました。

サッカースペインリーグで活躍する丹羽選手が、日本全国でゴール寄贈とサッカー教室を行う「ニワゴールプロジェクト」。本町での開催は3年連続です。

今年は震災10年事業として、園児、小学1・2年生の2部構成で開催。丹羽選手率いる先生チーム対子どもチームのミニゲームでは、先生たちに負けじと、子どもたちが目を輝かせながらボールを追いかけっていました。



お手本を見せる丹羽選手



先生に教わったヘディングを実践



Pickup Plus +  
今月のプラス

町選挙管理委員会による「選挙を学ぶ出前授業」が、津森小・広安西小・益城中央小・広安小の6年生を対象に実施されました。

児童たちは、投票から開票までの説明を受けた後、実際に使用される投票箱などを使い模擬選挙に挑戦。真剣に投票先を決め、活発な意見交換を行いました。(町は親子連れ投票を推進しています)